

団体名	NPO法人 くくのち	活動タイトル	自然体験と先端技術による人・地域成長事業	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体の実現したいビジョンは、「多様な環境の人の交流を通して、人が人間らしく成長できる環境づくり」である。具体的には、市街地では都市化・核家族化・少子化・地域における希薄化が進み、近年の子供たちに見られる「自然や地域社会と深くかかわる機械の減少」「集団活動不足」「物事を探索し、吟味する機械の減少」「地域や家庭の教育力の低下」などが課題となっているため、里山での環境を生かし、街中の人々と里山の交流を行い、子どもたちが豊かな成長を遂げられる社会を作りたい。</p>		<p>ドローンスクール (プログラミング コース)</p>	 <p>課題のプログラムをこなし、習った後に各グループで飛ばし方の想像をし、飛行のプログラムを入力して飛ばす実習。他のグループに飛び方を説明後に飛行開始した。</p>
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体の社会的役割（ミッション）は、里山での自然体験活動を通して、子どもたちの成長に必要な人間力を育む場を作る。運営の協力してくれる学生ボランティアには、人間力を育むとともに社会に出る意義を模索する機会としてとらえる場を設ける。新しい技術に触れて、積極的に物事に取り組み、発想力を高めることが出来る活動を行う。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●事業に参加してくれる子供たちの成長が見えるプランニングづくり ●学生スタッフの確保と人材教育 ●他団体との交流をきっかけにし、事業運営とスタッフのスキルアップをおこなう 			
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況	
<p>●ドローンスクール ドローン操縦の講師を迎え、操縦を体験する飛行コースとドローンを使ったプログラミングコースの2コースに分け実施した。操縦の安全についての指導を行い、先端技術を学び発想力・想像力を高める場を提供した。</p> <p>●自然体験活動</p> <p>①クラフトスクールではスタッフ講師の指導のもと、地元の木材を使用して木製万年カレンダーの制作を実施した。参加者には同じ材料で作品を作成してもらったが、各自オリジナルな発想で良い作品ができた。また、新型コロナウイルス感染対策として、マスクの着用、手洗いの消毒、参加時体調アンケートなどの協力のもと行った。</p> <p>②東原サマーキャンプでは親元を離れ、スタッフや友達との交流の中から、自立心・協同性・規範意識の変化など、成長の場を提供した。「五感を使って」をテーマとし地域を散策し、体でいろいろなことを感じてもらった。また、新型コロナウイルス感染対策と同時に熱中症対策にも配慮しながら実施した。</p>	<p>●ドローンスクール</p> <p>①開催 3回各2コース（当初コース分はなかったが、ニーズに合わせて分けた） ②目標アウトカム「自立心・協同性・規範意識変化」：参加者全員ができた評価を付けられた。</p> <p>●自然体験活動</p> <p>①開催 3回実施（東原ふれあいフェア含む）（当初計画6回を変更） ②目標アウトカム「自立心・協同性・規範意識変化」：参加者全員が各成長期に合わせた4段階評価でC評価以上のできた評価を付けられた。</p> <p>●活動基盤の強化</p> <p>①スタッフ研修会1回実施、くくのち会議5回（WEB会議3回含む）実施、自然体験活動における活動教育マニュアル（キャンプ事業活動を通してのボランティア教育）作成 ②自発的に活動できる運営スタッフ：6名 スタッフスキル：研修会での情報共有</p>		<p>サマーキャンプ</p>	 <p>地域の中を五感を働かせながら散策し、感じたこと発見したことを書き込んでもらった。キャンプ地に戻ったら、自分の感じたことを一人ずつ発表した。</p>
■ 事業を通じて得られたノウハウ				■ 望ましい社会状況を達成するための課題
<ul style="list-style-type: none"> ●活動拠点である金沢市東原町で地域活性化実行委員会を毎月行うことで、地域との連携を図り、イベント実施の運営上の課題の解決にもつなげることができた。 ●毎回アンケートを取ることで参加者のニーズを把握し、毎回のスタッフの振り返りにより改善点を共有し改善に役立てた。 ●中止になったイベントもあったが、そのなかでも新しい内容のイベントにおいては、事前打ち合わせを行い、予備実習を行って意見交換をしイベントに臨むことができた。 ●キャンプ事業においては、学生ボランティアに向けての育成マニュアル（キャンプ事業活動を通してのボランティア教育）を作成した。 ●新型コロナウイルス感染対策に対しては、イベント再開に向けての感染予防ガイドラインを作成し、イベント再開時には、対策をできるだけとりながら、実施することができた。 	<p>当団体の実現したいビジョンは、「多様な環境の交流を通して、人が人間らしく成長できる環境づくり」とし、具体的には市街地では都市化・核家族化・少子化・地域における希薄化が進み、近年の子供たちに見られる「自然や地域社会と深くかかわる機会の減少」「集団活動の不足」「物事を探索し、吟味する機会の減少」「地域や家庭の教育力の低下」などが課題となっているため、里山での環境を生かし、街中の人々と里山の交流を行い、子どもたちが豊かな成長を遂げられる社会をめざしています。</p> <p>今回のイベントを通して、既存の環境の中での活動だけでなく、新しい技術も共有しながらいろいろな方向から興味を持ってもらう機会の提供を行うことが大切であると再確認できた。スタッフの情報共有を密に行い、さらに、人と人、人と物の交流を深めてもらう機会を提供していきたい。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>当団体は先端技術と地域資源を活用し人の育成を行い運営スタッフ6名及び学生スタッフ4名のスキルアップを行い事業運営の強化</p> <p>を達成しました。</p>
			■ 受益者の具体的な変化（効果測定結果等）	
			<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンスクールや自然体験活動の機会がもっとあったらいいという意見をアンケートで見たり、聞いたりした。 ・コロナ禍においての新しいイベントの提供を構築する必要性を感じた。 	